

2025 年5月29 日

各位

青谷駅舎つかい隊共同代表

小谷峻一

山田由理子

植田千代香

青谷駅舎を「みんなが集える駅」にしよう

無人になった青谷駅舎をみんなで活用できる施設にするよう鳥取市に要望しましょう

「青谷駅つかい隊」に加わってください

JR 山陰本線青谷駅は1905 年（明治 38 年）開設されました。2022 年（令和 4 年）有人窓口での切符販売終了以来無人駅となってしまいました。

私たちの町「青谷町」は青谷駅を中心に発展し、青谷町住民、出身者、青谷町で働く人、学ぶ人など青谷町に関連する人々の大切な場所です。さらに「青谷バス」の運行もあり、車での移動が困難な高齢の方、障がいのある方、学生、そして旅する人々にとって、もっとも集まりやすい場所であり、青谷駅は「人の集まる流れ」を作り町全体に活気をもたらず駅ならではの力があります。

そこで、私たちは、鳥取市に JR 西日本と交渉し、青谷駅を「町づくりの拠点」として使えるようにしてほしいと思い「青谷駅つかい隊」を結成しました。

団体、個人を問わず住民が主体的に知恵と工夫で「みんなにやさしい活気のある町づくりの拠点」として活用しようではありませんか。

例えば

- ① みんなの交流の場（世代や立場をこえた交流の場）
- ② みんなの憩いの場（だれでもほっとできる居場所、持ち寄りカフェなど）
- ③ みんなの学びの場（小規模研修会・打ち合わせ・学習会）
- ④ 文化芸術活動の発表の場（作品発表・ワークショップ・活動予告・仲間づくり）
- ⑤ その他なんでも知恵と工夫でできること

人口が減少し、人と人との繋がりが希薄になり人間関係がどんどん分断されていく中で、地域コミュニティの需要性が高まっています。青谷駅舎を活用することによって、地域やコミュニティの力を高められると思います。「青谷駅」を「そんな町に住んでみたい」と思われる町づくりの拠点にしようではありませんか。

無人化した青谷駅舎をほっておいて、気が付いたらなくなっていたなんてことはあってはならないと思います。青谷駅は私たちの宝として活用しなければなりません。

どうか、「青谷駅つかい隊」に加わって、鳥取市に要望していただきたく強く願い申し上げます。